



校訓

自立・創造

若草

平成 23 年 3 月 22 日
尼崎市立若草中学校 (第 18 号)
<http://www.ama-net.ed.jp/school/J07/index.htm>

飛び立とう！ 未来信じて はずむ若い力信じて

第 51 回卒業証書授与式

3月11日(金)、体育館で「第51回卒業証書授与式」が行われました。106名の3年生が、本校職員、在校生、保護者の皆様、地域・来賓の方々に見送られ、若草を巣立っていきました。ご出席くださった皆様には、感謝申し上げます。おかげさまで無事に式を終えることができました。ありがとうございました。

校長式辞(一部抜粋)

チリの鉱山の落盤事故の時、地下 700m で力を合わせて耐え抜いた 33 人の作業員の方が 69 日ぶりに救出されました。救出カプセルで一人一人助けられるシーンは世界中に感動を与えました。そのリーダーであったウルスアさんは、極限状態を生きぬくための三ヶ条をこう言いました。

絶対助かるという希望 『生きるんだ』という強い気持ち 弱者への思いやり
ウルスアさんは、33人にこの三ヶ条を徹底し、見事にまとめあげました。

ウルスアさんのお手本が、経営学の神様と言われる「ピーター・ドラッカー」でした。そのドラッカーのことばの中から、卒業生を勇気づける二つのことばを紹介します。

ピンチの時こそ、チャンスなのだ！

成功のコツは、夢と希望を持ち、失敗を恐れず、チャレンジし続けることだ！

ドラッカーの言うように、失敗を恐れず、ピンチをチャンスだと前向きに考え、あきらめずに「夢」に向かって努力し続けることを、明日からの君たちに期待します。成功を信じています。

最後に、在校生は、明日からこの若草の主人公となれるよう、この節目の日に、自分の気持ちを新たにしてください。保護者の皆様には、3年間本校の教育に理解と支援をいただいたことを感謝し、また、お子様のこれからのますますの成長を心からお祈りいたします。

卒業生のことば 全員による群読・呼びかけで、最後にもと生徒会長の山崎君がしめくりました「手紙」より 十五の僕には誰にも話せない悩みの種があるのです。未来の自分に宛てて書く手紙ならきっと素直に打ち明けられるだろう。今、負けそうで泣きそうで、消えてしまいたい僕は、だれの言葉を信じ歩けばいいの？ 一つしかないこの胸が何度もばらばらに割れて、苦しい中で、今を生きている。ああ、負けないで。泣かないで。消えてしまいたい時は、自分の声を信じ、歩けばいいの。いつの時代も悲しみを避けては通れないけれど、笑顔を見せて、今を生きていこう。この言葉を聞いているあなたが、幸せなことを願います。

最後の言葉 いよいよ別れの時が近づいてきました。けれど、まだ私達は卒業するという実感がありません。明日の朝もいつもの時間に起き、いつもの時間に家を出て、いつもの仲間と勉強する。そんな生活がまだ続くような気がしています。みんなと別れるのはとてもつらいです。でも時は待ってくれません。いつまでもみんなと一緒にいたいですが、旅立ちの時がやってきました。

先生方、事務の方、市職員さん、購買さん、地域の皆さん、そして、ここまで育ててくださったお父さん、お母さん。本当にありがとうございました。

在校生のことば(一部抜粋) 2年生執行部の松川仁美さんの「送辞」でした 思い出の 1 シーン 合唱コンクールでの、体育館いっぱいに響いた迫力ある歌声や美しいハーモニー。そして、自信にあふれた、りんとした姿。でも、この美しい合唱が生まれるまでには、どの学年よりも早く取り組み始め、熱心に練習していた皆さんの姿があったことを私達は知っています。地道な努力を惜みず、みんなで目標に向かう先輩達の姿はとても輝いていました。いつまでも私達の先輩として輝き続けてください。

卒業生は一人ひとり、私から立派な態度で「卒業証書」を受け取りました。一人ずつ声をかけている間、3年間はよみがえり、感慨深かったです。特に、PTA会長の柳本さんの祝辞には、胸を打たれました。わが子の幼い頃からの血のにじむような病気との闘いを、語ってくださり、生徒のみんなにお礼をおっしゃいました。本物の「親心」を知ることができました。ありがとうございました。

答辞の中で「手紙」と「旅立ちの日」の2曲を合唱しました。



卒業証書の授与



松川さんの送辞



3年の先生一同

東北関東大震災

ここ最近、連日テレビ・新聞などで報道されている「東北関東大震災」のニュース。11日の午後、マグニチュード9.0の大地震を皮切りに大津波と激しい余震が東日本を襲いました。太平洋側の市町村は壊滅的な打撃を受けました。17日現在で、約2万戸の家屋が損壊し、死者・行方不明者が約1万5,000人、避難民が約40万人とされています。道路・空港・港が破壊され、東北地方への物資(水・食料・燃料など)が完全に途絶えています。また、福島第一現力発電所の損壊により、高度の放射能が漏れ、それによる避難民も増加しています。今生きておられる避難民の方も、寒さに震えながら乏しい食料でなんとか暮らしています。



大津波に飲み込まれる街

そんな状況の中、本校では、14日(月)に臨時朝礼を行い、亡くなられた犠牲者の方々に黙祷を捧げました。そのあとの道徳では、生徒がこれから私達に何ができるかを考えました。



氷点下に震える避難民

「新聞で『代われるものなら代わってやりたい』と書かれていました。親は子どもが助かるなら私はどうなってもいいと...それだけ子どものことを思っているんだと思いました。私は今、普通に学校に行ったりできているけれど、少しでも手助けができればいいなと思っています。」(2年女子) という感想もありました。

15日(火)には、生徒集会の時に生徒会執行部から、東北関東大震災への義援金募金の訴えがありました。ちなみに、ニュージーランドの震災義援金は、15日で打ち切り、募金総額は「29,000円」でした。ご協力ありがとうございました。16日(水)からは、今回の大震災の義援金を募ります。ご家庭でも、何ができるかを話しあっていただき、募金に協力していただければありがたいです。どうぞ、よろしく願います。

地域でクリーン活動をしました

17日(木)の朝に、校区内の各公園に集合して、執行部と美化委員が中心となって、ゴミ拾いをしました。みんなで拾ったゴミを、学校まで持ち帰り分別しました。そのあと、体育館で集会をし、美化委員長の西田さんがこの活動の意味を説明しみんなに感謝を述べました。『地域クリーン活動』は年二回ですが地域も、私達の心もきれいになりますので、毎年続けていきたいと思っています。保護者の方にも呼びかけますので、ご協力をお願いします。



ご協力ありがとうございました 生徒会

英語検定合格者 Congratulations!! おめでとう!
【準2級】笹部玲(1-1) 【3級】岩井美月(1-1)・砂場亮佑(2-2)・田邊菜桜(2-3)・杉山みのり(2-4)

子育て茶話会のお礼

今年度は3回しかできませんでしたが、本当に親同士の楽しい会話ができました。これからは、職員や一般保護者の方も気軽に参加できる場となるようしたいです。ありがとうございました。